

様式 2

先進地（現地）調査報告書

令和 6 年 1 1 月 8 日

玉名市議会

議 長 江 田 計 司 様

氏 名 中 村 慎 吾

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調 査 議 員	中村慎吾 浜田繁次郎 江田計司 作本幸男 田浦敏晴 立川信之 坂本公司 西川裕文		
日 時	令和 5 年 1 1 月 6 日（月） 午前・午後 3 時 1 5 分 ～ 午前・午後 4 時 4 0 分		
調 査 先	宮津市役所	自動車使用に 係る走行距離	km
調 査 事 項	市民と議会の懇談会		
調査先面会者	宮津市議会 議会情報化委員会 委員長 久保浩 副委員長 宇都宮 綾		
概要及び所見	1 市民と議会の懇談会を始めるに至った経緯 ・経緯については、市民に議会に興味を持ってもらうために開催を開始し、14名の議員が2班に分かれ、1班6か所を受け持つ。 2 懇談会について ・懇談会の頻度は、年2回以上で常任委員会の関連団体と各地区で行い、R4年のテーマは「子育て世代の声を聴こう」「地域の困りごと」、R5年は「持続可能なまちづくり」について行っている。 ・周知は自治会の回覧などで行っている。 ・対面方式からカフェスタイルへ変更。議員2名で1グループを担当。 ・参加者へのアンケートも行っている。 3 成果と今後 ・以前は対面形式で行っていたが、ワークショップ方式へ変更した。 ・行政を相手とした質問や問い合わせが多い。 総合 ・対面方式よりも、ワークショップ方式が様々な意見が出やすい。		

様式 2

先進地（現地）調査報告書

令和6年11月8日

玉名市議会

議長 江田 計 司 様

氏 名 中 村 慎 吾

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調 査 議 員	中村慎吾 浜田繁次郎 江田計司 作本幸男 田浦敏晴 立川信之 坂本公司 西川裕文		
日 時	令和5年11月7日（火） 午前・午後 2時00分 ～ 午前・午後 3時30分		
調 査 先	南丹市役所	自動車使用に 係る走行距離	km
調 査 事 項	出前でおしゃべり 青空会議の取り組み		
調査先面会者	南丹市市議会広報広聴委員会 委員長 平田聖治 副委員長 塩貝孝之 副委員長 山下秋則 委員 下間康広 委員 吉田尋子		
概要及び所見	概要 - 今季3つの事業を計画 ① なんとん未来会議 ②出前でおしゃべり青空会議→R5年から開催 ③なんとん円卓会議 ↓↓ 開かれた議会の実現には市民の声を聴くことは不可欠 コロナ過で議会報告等も出席者が少ない こちらから出向いて話を伺う機会を作る ・年4回開催し町内のイベント会場にて開催 ・班分けは、会派ごととし、テーマは特に設定しない ・ご意見、ご相談シートを活用し、議員のみで対応する 所見 ・令和5年度からスタートし、3回実施。参加者を増やすことが大変である ・3回目はアンケートを実施した為、参加者が増加した。イベント的要素必要 ・市内の高校2年生と意見交換会を初開催（率直な意見など、学生からの見た目やイメージを聞くことが出来、今後活用） ・なんとん未来会議では若者を対象に意見交換を行い「議員の仕事内容や、市民の為に色々な事を考えていてくれる事がわかった」とあった ・玉名市も学生との意見交換なども検討しても良いのではないか		

様式 2

先進地（現地）調査報告書

令和6年2月16日

玉名市議会

議長 江田 計 司 様

氏 名 中 村 慎 吾

下記のとおり、先進地（現地）調査を行いましたので報告します。

調 査 議 員	中村慎吾 浜田繁次郎 田浦敏晴 立川信之 坂本公司 西川裕文 近松恵美子 作本幸男 中尾嘉男		
日 時	令和6年2月14日（水） 午前・午後 9時00分 ～ 午前・午後 10時30分		
調 査 先	萩市役所	自動車使用に 係る走行距離	km
調 査 事 項	萩まちじゅう博物館の取り組み		
調査先面会者	萩市商工観光部 次長 大槻洋二 商工観光部 まちじゅう博物館推進課 課長補佐 井上健助		
概要及び所見	概要 1 現在の萩市は H17 年 3 月に 1 市 2 町 3 村が合併し当時の人口は約 6 万人。 現在約 4.3 万人となり消滅可能都市に指定されている。歴史と文化の街 2 構想としては、萩の特色である市内に存在する文化財や自然環境などを“おたから”として保存展示し、街全体を屋根のない広い博物館とみなす「萩まちじゅう博物館」を市民と行政の協働でおこなっている。 3 萩のおたからを位置づけ、自然・文化・産業・歴史の 4 つに分類 基本理念は「萩のおたからを活かした協働による町づくり・観光地作り 指定文化財・指定外の歴史的風致形成建造物の整備し、活用し公開文化財として NPO・行政、観光協会文化団体が協力してイベント、展示場として活用 所見 ・ 事業に取り組んで 20 年程なるが、まだまだ観光客には、伝わっていない印象。情報発信を行い、地道に広げて行きたい。 ・ 市内発信を中心に行ってきたため、市民には伝わっている。 ・ NPO などの各種団体も、設置か 20 年程となり当時 50 代が中心だったので現在は 70 代が中心で、人数も大きな変動がない。新しい人が入ってこないのが大きな問題で、若い人に興味を持ってもらいたい。10 年後が不安。 ・ 施設の維持管理は、民間の力で活用を行っている地区があり、このようなやり方で進めていきたい。		